

第3学年 社会科学習指導案

2組 計25人 (男子9人, 女子16人)

指導者 北川 政人

1 小 単 元 お店ではたらく人

2 小単元について

(1) 小単元の価値

本小単元「お店ではたらく人」は、小単元「工場のしごと」とともに大単元「人びとのしごととわたしたちの暮らし」を構成している。本小単元では、わたしたちの地域にある、身近なスーパーや商店などで働く人々の仕事について調べる活動を通して、これらの人々によってわたしたちの日々の生活が支えられていることを理解できるようにすることをねらいとしている。

子どもたちはこれまで、小単元「学校のまわり」や「市のようす」での学習を通して、自分たちの住む地域社会の様子について理解を深めてきた。また、前小単元「工場のしごと」では、身近な地域の生産に携わる人々の工夫や努力についても学習してきた。

これらをふまえて本小単元「お店ではたらく人」では、身近な地域の商店の様子や販売の工夫について調べ、実際にこれらの仕事に携わる人々へのインタビューやふれあいを通して、これらの仕事はわたしたちの生活を支えていることに気付くことができるようにする。また、消費者は商品の品質や価格などを考えて店や商品を選んでおり、商店ではその消費者の願いに基づいて商品の販売について工夫していることを理解できるようにする。加えて、自分たちの地域は消費生活を通して、国内の他地域や外国などと関わりがあることにも気付くことができるようにする。

これらの学習を通して、子どもたちは地域社会の一員としての自覚をもつことができると考える。

(2) 小単元の目標

【◎は小単元の重点目標】

- 販売に携わる人々の様子や仕事に関心をもち、友達と協力しながら進んで調べ、消費者や販売者の願いや思いについて進んで考えようとする。 【社会的事象への関心・意欲・態度】
- ◎ 販売に携わる人々は消費者のニーズや願いに合わせて工夫していることを考えることができる。 【社会的な思考・判断】
- インタビューをはじめとした体験活動を通して、働く人の様子を具体的に観察・調査し、見学メモや社会科新聞に分かりやすく表現することができる。 【観察・資料活用・表現】
- スーパーマーケットやコンビニエンスストアなど、販売に関する仕事にはそれぞれ特色があり、これらの仕事に携わる人々によって、わたしたちの日々の生活が支えられていることを理解し、消費生活を通して、他地域との関わりを理解することができる。 【社会的事象についての知識・理解】

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちは、第3学年から始まった社会科への興味・関心が高く、本学級の約9割の子どもたちが社会科の学習を楽しんでいると感じている。その理由として見学学習や調べ学習の楽しさをあげている子どもが多い。しかしながら、調べたことや考えたことなどを、うまく整理しながらまとめることについては、まだ十分ではない子どももいる。従って、話し合いを通してお互いの考えを交流させ、分かったことを整理して、社会科新聞にまとめるという活動を通して、これらの技能を高めていきたいと考える。

本小単元に関する子どもの実態については以下の通りである。

〔調査人数：25人 H17. 9 重複あり () の数字は人数〕

ア あなたがよく行くお店は何というお店ですか。 ※【 】は商店の形態で教師が回答を分類			
【スーパーマーケット】	【コンビニ】	【専門店 等】	【デパート等】
・フレッセ (8) ・サンキュー (3)	・ローソン (2)	・テジツ (パン販売店) (2)	・ダイエー (7)
・城山ストア (2) ・タイヨー (2)	・サンクス (1)	・100円ショップ (1)	・アミュプラザ (5)
・まるい (1) ・コープ (1) ・ニシムタ (1)	・ココ (1)	・ゲームソフトのお店 (1)	・山形屋 (1)

イ なぜそのお店に行くのですか。

・近から(13) ・いろいろな物があるから(10) ・安いから(8) ・遊べるから(2) ・役立つ便利な物があるから(2) など

ウ 買い物をするとき気を付けていることは何ですか。

・値段(7) ・新鮮さ、日付(6) ・きれいなものを買う(2) ・栄養の表示(1) ・買いすぎないようにする(1) など

エ お店の人は品物をたくさん売するためにどんな工夫をしていると思いますか。

・品物を分類して見やすくしている(4) ・値段が書いてある(2) ・良い物をかざる(2) ・放送で呼びかける(タイムサービス)(2) ・3割引のシールがある(1)
・おすめが書いてある(1) ・「大運動会」コーナーがある(1) ・商品を入口近くに置く(1) ・くじや抽選などで安くする(1) ・おまけをつける(1) など

実態調査の結果から、子どもたちは身近な地域の様々な形態のお店を利用していることが分かる。子どもたちはお店を選ぶ理由として、「近さ」や「品揃え」、「価格」などを挙げているものの、コンビニエンスストアの特徴である24時間営業や、スーパーマーケットの生鮮食品の新鮮さや豊富さなど、それぞれの形態の商店がもつ特徴には気付いていないようである。また、全体の約3割の子どもたちが買い物の際に実際に値段や品質、安全性に気を付けていると答えている。また、お店の人の工夫としては、「品物を分類して見やすくしている」などの買い物のしやすさについて、日頃の生活経験を生かして回答している。

本学級の子どもたちは、三年生になり少しずつ友達といっしょに活動することに興味をもつようになってきている。そのため、一人で学習を進める形態に比べてペア学習やグループ学習を好む子どもが多く、その活動意欲も旺盛である。これらの実態から、これまで社会科を中心として意図的なグルーピングによるペア学習やグループ学習を授業の中に取り入れてきた。その結果、学び合いの調査では、自己有用感が高まったと感じる子どもの割合が56%（5月）から72%（7月）へ、また、学び合いによっていろいろなことが分かったり、はやくおぼえられたりしたと感じる子どもの割合が60%（5月）から76%（7月）へと増えてきている。よって本小単元では、これまでのペア学習やグループ学習での成果を生かし、より多くの子どもたちが役割をもち、積極的に友達と関わるができるようにすることで、販売に携わる人々への理解を深めることができるようにしたい。

3 指導に当たって

本小単元の指導に当たっては、以下のような点に重点を置いて指導していきたい。

(1) 評価方法及び評価に基づく指導について

ジグソー学習において、子ども一人一人がどのような考えをもち、理解を深めているかということについて、見学メモやワークシートの記述、グループ及び全体での発表を評価規準に照らして評価することで、どのような助言や支援が必要かを考慮しながら、具体的な援助の方法を検討して指導を行う。

(2) 個に応じた指導について

課題別に追究する場面では、ジグソー学習において、スーパーマーケットとコンビニエンスストア、専門店、デパートなどを選択させることで、一人一人の子どもの興味・関心に対応し、その子ならではの調べ方、まとめ方を保証する。また、それらのよさについて個別に取り上げて紹介したり、その子どもを称賛したりする。

(3) 高めたい「学び方」について

ア 自分が調べたお店の形態と、他のお店の形態との共通点・相違点について気付くとともに、自分の考えを、その理由や根拠を明らかにしながら表現する。

イ 調べたことを整理して、必要な情報だけを選択し、構成して、社会科新聞にまとめる。

(4) 「よりよい学び合い」の場について

調べる場面では、クラスを六つに分けた【まとめ班】の中で、それぞれ四つの異なる形態のお店を担当し調べるようにする。そのお店ごとに新たに【追究班】を作り、そこで調べた結果を再度【まとめ班】に持ち寄り、話し合うというジグソー学習を取り入れることにする。これにより、子どもたちは【まとめ班】の友達に自分が【追究班】で調べた内容を伝えるという責任を負う。このようにどの子どもにも一律の役割を与え、積極的に社会的事象について調べ、友達と関わる場面を取り入れることで、活発な話し合いができるようにする。

また、【まとめ班】の中で友達にうまく伝えることができなかった場合、【追究班】に一度もどり、【追究班】の中で再度、確認することで、どの子も自信をもって話し合いができるようにする。

4 小単元の指導・評価計画（全14時間）

●は、本小単元における主な「学び合い」の場とそのねらい

※は重点評価項目

過程	時間	主な学習活動	教師の指導	評価項目や評価方法
つかむ	1	1 いろいろなお店の写真を基に気付いたことや、疑問に思ったこと、調べたいことを話し合い、学習問題を設定する。 お店ではたらく人は、たくさんのお客さんに来てもらえるように、どのように働くふうをしているのだろうか。	○ 身近な地域のお店の写真を提示し、日頃あまり気付かないお店の中の様子や工夫について、目を向けるようにすることで、興味や関心を喚起することができるようにする。	○ 販売に携わる人々の様子や仕事に関心を持ち、自分なりの問題を見つけることができたか。 【関心・意欲・態度】 (発表・ノート)
	1	2 【まとめ班】の中で調べるお店を形態別に分担し、新たに【追究班】をつくり、学習の計画を立てる。 [学習計画] たくさんのお客さんが来るひみつをさぐれ！ 【まとめ班】 分 担 スーパ コンビ 【追究班】 専門店等 デパート 【まとめ班】話し合い まとめ	○ 調べるお店を形態ごとに四つに分類することで、子どもたちの興味・関心を生かすことができるようにする。 ○ 【追究班】の調べ学習においては、調べるお店を1件に限定せず、多様な調べ方を保証することで、その子なりの調べ方や考え方のよさを生かすことができるようにする。 ○ 見学・インタビューするときの視点として、どのお店にも共通して調べることを整理し、明確にしておくことで、【まとめ班】での意見交換がしやすいようにする。	○ 販売に携わる人々の様子や仕事について、調べる計画を立てることができたか。 【技能・表現】 (発表・ノート) ○ 前小単元で学習したことを基に、調べ方を工夫したり、調べに行くためのインタビューメモや、調べる視点の整理をすることができたか。 【技能・表現】 (発表・ノート)
調べる	4	3 【追究班】ごとにお店を見学し、調べる。		○ インタビューをはじめとした体験活動を通して、働く人々の様子を具体的に観察・調査し、見学メモに、分かりやすく表現することができたか。 【技能・表現】 (発表・ノート・メモ)
	9	2 4 【追究班】の中で、調べてきたことを整理する。 2 5 【まとめ班】にもどり、【追究班】で学習してきたことについてそれぞれ発表し合い、意見や考えをまとめる。 (1) どのお店にも共通する工夫や努力について話し合う。 (2) お店ごとの特色について話し合う。	● 【追究班】で学習したことを【まとめ班】で発表するという責任を一人一人が負うことで、学習に積極的に関わることができるようにする。 ● 全体の学び合いの場において、教師が一人一人の考え方を認め、称賛することで、子どもたちが自信をもって発表できるようにする。	※ 販売に携わる人々は消費者のニーズや願いに合わせて工夫していることを考えることができたか。 【思考・判断】 (発表・ワークシート)
まとめる	2	6 分かったことを社会科新聞にまとめる。	○ 買う立場と売る立場を対応させながら考えることで、消費者のニーズや願いと、販売の工夫や努力が深く結びついていることに気付くことができるようにする。	○ 販売に関わる仕事には、それぞれに特色があり、携わる人々はそれに応じて、販売の工夫や努力を続けていることを理解することができたか。 【知識・理解】 (発表・ノート・新聞)
	1	7 お互いの社会科新聞を読み合い、意見交換する。		
	4	1 8 小単元のまとめをする。	○ 教科書や「のびゆく鹿児島」の小単元の内容と、これまで学習してきたこととを比較しまとめることで、学習内容の定着を図る。	○ 消費者として、学習したことを、これからの生活に生かそうとしているか。 【関心・意欲・態度】 (発表・ノート・新聞)

